

評価結果公表票

作成日 平成20年8月7日

【評価実施概要】

事業所番号	0272700980
法人名	特定非営利活動法人柳沢
事業所名	グループホームいちよの郷
所在地	三戸郡階上町大字赤保内字柳沢15-269 (電話) 0178-80-1007
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成20年6月9日

【情報提供票より】(平成19年12月 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成15年4月30日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 9人, 非常勤 6人, 常勤換算	3.42人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,200 円	その他の経費(月額)	理美容代実費ほか 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	17 名	男性	7 名	女性	10 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79 歳	最低	65 歳	最高	91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	総合リハビリ美保野病院、松平病院、小松内科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「自立支援」「人生の大先輩としてその尊厳を大切にします」「生き甲斐、生活のうおい、喜びの提供」というホーム独自の理念を掲げている。また、利用者の笑顔を引き出すためには、まずは職員自身が楽しいと感じることが大切だという基本姿勢を持っており、利用者一人ひとりの違いを尊重し、個々がその人らしさを発揮できるようなケアに取り組んでいる。
 看護師の資格を持った職員を配置し、いつでも相談できる体制を整備するほか、栄養士の指導のもとで栄養バランス等に配慮した食事を提供するなど、利用者の医療面・健康面でのケアの充実を図っている。また、利用者と一緒に収穫した山菜や菜園で採れた野菜を食材として使用するなど、食事を楽しめるような工夫も行われている。
 共用空間には季節の花や行事の写真を飾ったり、居室には畳を設置するなど、利用者一人ひとりが落ち着いて暮らせるよう、家庭的な雰囲気作りを行っている。

【特に改善が求められる点】

地域密着型サービスの役割等を再度全職員で話し合い、現在の理念に盛り込んでいくことに期待したい。
 自己評価は運営者や管理者、主任のみで作成しているため、日々のケアの振り返り等につなげるためにも、全職員で実施してはどうか。
 これまでの傾向や職員の希望等を把握し、内部・外部研修の年間計画を作成することに期待したい。また、計画には地域福祉権利擁護事業や成年後見制度に関するテーマも盛り込んでどうか。
 重度化した場合は医療機関や家族等の協力を得ながらホームで対応しているが、今後は重度化や終末期のケアに関する指針を明文化した上で取り組んでどうか。
 災害時に備えて避難訓練等を実施しているが、夜間帯を想定した訓練を行ったり、数日分の食料や飲料水等の備蓄品を用意していくことに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価結果を基に改善に向けた話し合いを行っており、かかりつけ医の協力を得て定期健診を実施するなどの取組みにつなげている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員会議等で評価のねらいや活用方法等を職員に周知している。自己評価は運営者や管理者、主任のみで取り組んでいるので、今後は職員も一緒に取り組むことに期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には地域区長や民生委員、婦人会長、町役場担当課職員等が参加しており、委員にホームを知ってもらうことから取り組んでいる。会議では日々の取組みや評価結果等を報告し、委員から意見を出してもらっており、委員から出された意見は今後のケアサービスの向上につなげている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>行事や面会時、電話等を通じて暮らしぶりや受診状況、職員異動等を家族に報告している。面会時は家族が要望等を話しやすい雰囲気を作ったり、重要事項説明書にホーム内外の苦情受付窓口を掲示するなどの取組みを行っており、家族から意見等が出された時は今後のケアに反映させるよう努めている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入して草取りに参加したり、夏祭りやえんぶり鑑賞会等のホーム行事を開催する時は案内を地域に配布するなどの働きかけを行っている。また、婦人会や保育園児の訪問を受け入れたり、近隣の大型スーパーや道の駅などに日常的に買い物に出かけるなど、地域に開かれたホーム作りを行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入して草取りに参加したり、夏祭りやえんぶり鑑賞会等のホーム行事を開催する時は案内を地域に配布するなどの働きかけを行っている。また、婦人会や保育園児の訪問を受け入れたり、近隣の大型スーパーや道の駅などに日常的に買い物に出かけるなど、地域に開かれたホーム作りを行っている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>理念をホーム内に掲示したり、ミーティング時に全職員で唱和する等、理念の共有化を図り、その実現に向けて日々取り組んでいる。契約時は理念やケアの方針等を利用者や家族に詳しく説明し、疑問や不安等に対応している。また、退居時にも説明して同意を得ており、退居時には退居先に関する情報提供等も行っている。利用者の心身の安定を第一に考え、職員の異動は頻繁に行わないようにしている。異動等を行う時は利用者への説明を行うとともに、職員間の引継ぎを行い、できるだけ変化のないケアを提供できるよう努めている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>入居前から利用者や家族との話し合いを十分に行って個々の要望を把握するなど、利用者が安心して暮らせるよう支援している。職員は利用者と一緒に過ごす時間を通して、一人ひとりの喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、利用者が得意な場面では力を発揮してもらうなど、利用者職員が助けあいながら生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>全ての利用者が可能な限り自立し、自分らしい生活を送れるよう、利用者や家族の要望、職員の気づき等を取り入れながら介護計画を作成している。看護師の資格を持った職員を配置して医療面でのケアの充実を図っている。また、入居前からのかかりつけ医での受診を支援したり、協力医療機関を確保するなど、緊急時等にいつでも対応できる仕組みを整えている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>職員は、利用者一人ひとりに役割や楽しみを促し、それが生きがいにつながるよう支援することを心がけており、利用者の生活歴等を把握した上で、山菜採りや金魚の餌やり、菜園での野菜作り等の場を提供している。居室や玄関は施錠しておらず、利用者の外出傾向を察知できるようにセンサーを設置している。察知した時は職員と一緒にホーム周辺を散歩したり、車で出かける等の支援を行っている。また、無断外出時に備えて近隣に協力を呼びかける等の取組みも行っている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自立支援」「人生の大先輩としてその尊厳を大切にします」「生き甲斐、生活のうらおい、喜びの提供」という理念を掲げている。しかし、地域密着型サービスの役割等について話し合う機会が少なく、全職員が理解するまでには至っていない。	○	地域密着型サービスとしてのグループホームの位置付けや役割等を改めて全職員で話し合うなどの取り組みを行い、現在の理念に盛り込んでいくことに期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をホーム内に大きく掲示したり、ミーティング時に全員で唱和するなど、共有化を図っている。また、利用者一人ひとりの違いを尊重するとともに、笑顔が溢れた明るい暮らしの中で、利用者によるその人らしさを発揮してもらえるようなケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入して草取りに参加したり、ホーム行事の夏祭りやえんぶり実演等の案内を各戸に配布する等、地域にホームを理解してもらえるよう働きかけを行っている。また、地域の大型スーパーや理美容院を利用したり、文化交流館の文化祭に出かけるなどの取り組みも行っている。婦人会や近隣の保育園児の訪問などを受け入れており、その際には利用者のプライバシーに配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職場会議等で運営者や管理者、主任から評価のねらいや活用方法を全職員に周知している。外部評価の結果を受けて改善点に関する話し合いを行っているが、自己評価を作成する際は管理者や主任のみで取り組んでおり、職員が関わるまでには至っていない。	○	日々のケアの振り返りや新たな気づきを得るためにも、自己評価を作成する時は全職員で取り組んではどうか。
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には地区長や民生委員、婦人会長、町役場担当課職員等が参加している。会議では日々の取り組みや自己・外部評価結果などを報告し、委員から広く意見を出してもらっている。また、委員から出された意見は今後のケアサービスの向上に反映させている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町役場担当課窓口にパンフレットを配布したり、運営推進会議を通して評価結果を報告するなど、ホームの現状を伝えている。また、事あるごと行政に出向き、利用者の暮らし等について相談したり協議するなどの連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について管理者は理解しているが、現在制度を利用している方がいないこともあり、全職員が概要を理解するまでには至っていない。	○	外部研修等に積極的に参加したり、研修後に全職員に周知徹底するなど、全職員が概要を理解し、必要に応じて利用に向けた情報提供等を行う仕組み作りに期待したい。
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や内部研修を通して全職員が虐待について理解を深めている。また、管理者や主任は職員の日々のケア提供場면을観察するなど、虐待を未然に防ぐよう努めている。しかし、虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れ等に関する取り決めを作成するまでには至っていない。	○	全職員で話し合いを行うなど、虐待を発見した場合の対応や報告の流れ等について取り決めを作成してはどうか。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書を基に理念やケアの方針等を詳しく説明しており、利用者や家族が疑問・不安等がある時は十分に話し合いを行って納得してもらっている。また、契約改訂時や退居時にも説明して同意を得ており、退居時には退居先に関する情報提供を行うなどの支援もを行っている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事や面会時、電話等で近況や受診状況、職員の異動等を家族に報告している。また、金銭管理状況は出納帳に記録し、家族に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時は家族が意見や要望等を話しやすい雰囲気を作っている。また、重要事項説明書にホーム内外の苦情受付窓口を明示しており、家族から要望等が出された時は今後のケアに反映させるよう努めている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の心身の安定を第一に考え、職員の異動は頻繁に行わないこととなっている。異動等を行う時は利用者への説明を行うとともに、職員間の引継ぎを行い、できるだけ変化のないケアを提供できるよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務上の悩みには主任が助言等を行っている。ホーム内の初任者研修や継続研修を実施したり、外部研修受講後は資料を基に伝達研修を行っている。しかし、外部研修後の報告書や年間の研修計画は作成されていない。	○	外部研修受講後は、所感等も含めた報告書を作成してはどうか。また、これまでの傾向や職員の希望等を把握し、内部・外部研修の年間計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム連絡協議会に加盟しており、研修の機会等を利用して他事業者との交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前から利用者や家族との話し合いを十分に行って個々の要望を把握するなど、利用者が安心して暮らせるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に過ごす時間を通して、一人ひとりの喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、利用者が得意な場面では力を発揮してもらうなど、利用者職員が助けあいながら生活している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者の言動を観察するほか、家族から情報収集を行ったり、職員間で話し合いを行うなど、一人ひとりの意向等の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全ての利用者が可能な限り自立し、自分らしい暮らしを送れるよう、介護計画作成時には利用者や家族の思いに耳を傾けるとともに、職員間で意見や気づきを出し合っている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、3ヶ月ごとに見直しを行っている。また、状態等に変化がある時は随時見直す体制となっている。見直し時は利用者の状況把握を行うとともに、面会時等を通じて家族から意見などを聞いている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診時に送迎したり、ドライブや買い物に出かけるなど、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。また、看護師の資格を持った職員が配置されており、医療面に関する助言を他職員に行うなどの体制が整えられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する入居前からのかかりつけ医を継続して受診できるよう支援している。また、協力医療機関を確保したり、看護師の資格を持った職員を配置するなど、緊急時等にいつでも対応できる体制を整備している。受診介助は職員が行っており、受診結果は電話で家族に報告している。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、医療機関の協力を得ながら、職員体制を強化したり家族の協力を得てホームで対応するなどの取り組みを行っているが、重度化や終末期に関する方針が明文化されていない。	○	重度化や終末期に関する方針を明文化するとともに、職員や利用者、家族に対してその方針を周知していくことに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを尊重するとともに、声かけや介助時は羞恥心等に配慮している。また、職員は個人情報保護法を理解しており、個人に関する書類は訪問者等の目に付かない場所に保管するなどの対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の言動を急かすことなく、起床時間や食事時間など、一人ひとりのペースを大切にケアを提供するよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に収穫した山菜や庭の菜園で穫れた野菜を献立に取り入れたり、食が進まない場合は家族と相談して好きな物を差し入れてもらう等、食事を楽しめるような工夫を行っている。また、食器拭きを一緒に行ったり、職員も利用者と同じ食事を摂るなど、さりげないサポートを行いながら会話を楽しんでいる。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴となっており、一人ずつ入浴してもらうなど、利用者の羞恥心に配慮している。入浴を拒否する利用者には別の日に再度誘導したり、清拭や足浴を促すなどの対応を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの経験や生活歴を把握しており、山菜採りや金魚の餌やり、菜園での野菜作り、食事の後片付けなどの役割や楽しみごとを促している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調に配慮するとともに、希望を聞きながら、近隣の観光地や町の行事、道の駅、買い物等に出かけている。また、受診の帰り道に利用者の自宅前を通るなどの支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員は外部研修等を通して身体拘束の内容等を理解しており、拘束のないケアを実践している。また、やむを得ず拘束を行わなければならない場合は家族に説明して同意を得るとともに、理由等を記録に残す体制となっている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は施錠しておらず、外出傾向を察知できるようセンサーを設置している。察知した時は一緒にホーム周辺を歩いたり、車で出かけるなどの支援を行っている。また、日々の関わりや運営推進会議等を通じて地域との交流が図られており、無断外出時に協力が得られるよう働きかけを行っている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に近隣からの協力が得られるよう警察署や消防署に働きかけを行ったり、年2回、消防署の指導・協力のもとで避難訓練を実施しているが、夜間を想定した訓練や、食料や飲料水等の備蓄品を用意するまでには至っていない。	○	夜間帯を想定した訓練を行うとともに、数日分の食料や飲料水、寒さをしのげる物品等を用意することに期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士や看護師の協力を得て、栄養バランスやカロリーに配慮した食事を提供している。食事は一日1,200～1,400kcal、水分は1,000～1,500ccを目安に提供しており、摂取量は記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルが作成されており、行政や保健所等からの通達などがあった時は随時の見直しを行っている。また、看護師の指導のもと、感染症に関する学習の機会を設けている。感染症のファイルをホーム内に掲示したり、消毒用アルコールを設置するなど、家族への情報提供もしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には季節の花や行事の写真等が飾られており、家庭的である。また、職員が立てる物音は騒がしくなく、日射しの強さはカーテンで調整するなど、快適な空間となっている。		
34	78	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得て昔の写真などを持ってきてもらっている。また、利用者の作品を飾ったり、畳を設置するなど、一人ひとりが過ごしやすい居室作りが行われている。		

※ は、重点項目。